

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・まごころ」で日々職員は接し、利用者は希望や思いがかなえられ、「笑顔・満足」で日々過ごせるよう心がけている。	事業所立ち上げ時、職員全員で考えた「笑顔」「まごころ」「満足」の理念は、日々の暮らしを支援する柱となっている。日常のサービス提供場面においても、理念がケアに反映されているかを、職員会議等で確認し合っている。利用者・家族の尊厳、権利を守りながら地域生活の継続支援を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市報や祭りの案内状が配られたり、登下校の子供たちに声を掛けたりしている。近所の方が草取りや、収穫した野菜を持ってきてくれます。	広い駐車場スペースが、地区のお祭りの神輿の休憩所となるなど、事業所が地域の一員としての役割を担ってきている。散歩で会話が弾みイチャジキを頂いたり、四季の野菜のおすそ分けが日常的に行われている。また通学路に面したテラスは、登下校の子供達に触れ合える場であり、中学生の体験学習は、次世代の育成に繋がっている。市報や区長を通じて情報を受け入れているが、残念ながら事業所からの積極的な発信はされていない現状がある。	だんだん、利用者が地域と繋がりながら暮らし続けられる関係が構築されてきている。今後は行政とも連携し、事業所で取り組んでいる様々な活動を発信して、地域住民が気軽に参加出来るような「場」になることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習やボランティアが増えました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域役員の方々が納涼会で盆踊りを盛り上げて下さった。	運営推進会議は定期的開催されており、事業所の現在取り組んでいる内容についての報告や利用者・家族の代表者、市福祉課、包括支援センター、区長、地域の関係者からの意見、要望等をいただいている。地域のボランティアを活用する提案があるなど、具体的に活かしていけるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議などに参加し、情報交換や研修を行っている。また、地域密着型サービス区分の会議には悩みなど解決に向けた手立てが得られる。	定期的開催される地域ケア会議、地域密着型サービス区分会議に参加しており、市町村担当職員との連携を密にしている。相談事項に応じて、解決に向けた支援のあり方を方向づけた事例もあり、関係構築に積極的に取り組んでいる。また会議の内容等も職員に閲覧、申し送り等で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、周知されている。また、身体拘束をしないケアを目指している。	事業所全体で身体拘束をしないケアを目指し、実践に繋げる努力をしている。玄関ドアも施錠せず職員の見守り方法を徹底し、お互いに声を掛け合い拘束に繋がらない工夫をしている。毎日その日のケアを振り返り、利用者の人権が守られているかを確認している。年に1回、7つのケアの原則、5つの基本的ケアについて、学びの機会の場を設けているが、いずれも書面で綴じられているだけで、職員の目に触れる機会が少ない現状が残念である。	事業所の理念に繋がる日々のケアの目指す視点であるため、この書面をどう活かしながら実践に導いていか、管理者を含めて職員全員で考えていく過程構築が期待される。
7	5-2	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社内外の研修により、学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。また、虐待に当たるような対応とは何か、折にふれ、確認したり、未然に防止できるよう、日々の対応に職員同士注意し合ったりしている。	日々の暮らしの支援の中で虐待になる行為とは何かを、学ぶ機会もあり不適切なケアについては、お互いに注意しあえることで、未然防止に繋げている。管理者は、職員のストレス、疲労がケアに影響していないか配慮する姿勢が窺える。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方に対して支援を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明・理解を図るように努めている。改定時には、説明文書や同意書を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時に、生活をより楽しめる工夫や方法を伺ったり、入居者や家族の面会時などに要望や意見を聞かせてもらうこともある。	利用者の希望や小さなつづやきを大切に、話しやすい雰囲気づくりを目指し努力している。面会時においては、家族からの意向も汲み取りケアに繋げている。事業所では、苦情を大切に受け止め、安心した暮らしの継続支援に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の職員会議の後の常勤会議を開催し、2つの事業所と代表者が集まり、職員の意見や提案を聞いてもらう機会があるのでその場で、すぐに改善あるいは、対応が得られている。	代表者や管理者は、常勤、パート職員からの意見や要望、提案をしっかりと受け止め、一緒に話し合いながら、働きやすい環境作りを目指している。職員からのアイデアで全員外出の昼食会に繋がるなど、利用者の楽しみとなった事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員個々が資格取得や講習会や研修会などの参加に声をかけ、働く意欲につなげていけるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加したら受講報告書や資料など、回覧し、職員が情報共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3魚沼GH連絡会があり、意見交換会や情報収集に役立っている。年1回ではあるが合同研修会も開催されている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入に不安・心配を受け止め、安心につなげられるよう理解を求めながら関係づくりをしている。またいつでも聞ける体制ができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談に来られた際、心配事や要望等を聞いたり、本人と面談させてもらい状態把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族等の実情や要望を聞き、事業所でできる事を見極め、必要な支援を見極める手立てとしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく、特に食事の準備などは、昔から携わってこられているので参加をお願いしている。また思いや不安を聞き、その方を深く知る事に努めている。職員の心配事や悩みも聞いて頂いたり、励ましてもらうこともある。		
19	7-2	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の生活状況等を通信を郵送し、家族にお知らせしている。面会時には、ご本人の様子などをこまめに伝えたりして必要な物や必要なことなど了解を得て用意してもらうなど、できる事から取り組んでいく様にしている。	本人との繋がりを深めていけるよう職員は利用者の思いに寄り添い、「ぶなの里通信」に日頃の生活の様子、状態をきめ細かく伝えている。また面会時を利用したり、電話で状況の報告や必要物品の依頼をするなど、家族との協力関係を大切にしながら支援に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟・本家など、親戚に方がこまめな面会があったり、地域の情報を得たりして、居住地など関係性が保たれ満足しているようである。	利用者の半数以上が1時間以内の居住地に暮らしていることから、墓参り、米寿のお祝い、外出など等で今迄培ってきた関係性が保たれている。地域の様々な情報を見聞きすることを楽しみにしており、地域社会との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場や雰囲気に応じた、仲立ちに務めている。また入居者同士の思いやりや、優しい言葉かけが聞かれたりするので、そういう場面を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者には、本人様の情報をできるだけ詳しく伝えたり、その後の様子についても聞かせてもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思い、希望、要望等が明確に話して下さるので把握しやすい。困難な人には、日常の会話の中や繰り返し発せられた言葉や話を大切に職員が共有し、検討したりしている。	管理者、職員はこれまでの生活歴や生きざまなどを家族から情報を得て、それらの内容から更に日々の関わりの中で、何気ない会話を聞き取ることを重要視している。得た情報は職員間で共有し検討を重ねている。困難な人には反応から気持ちや思いを推量り意向把握に努めている。	
24	9-2	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人あるいは、サービス担当者や家族から情報を得ていることを共有し、プライバシーに配慮しながら生活の中で取り入れたりしている。	前項目同様に本人、家族からの情報を下に得意とすることや、仕事として関わってきたことなどを引き出しながらできる範囲で生活の中に取り込んでいる。縫い物であったり、お勝手仕事など、小さなことではあるけれど心地良い暮らしが続けられるよう支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のできる力を理解し、それを役割としたり、継続的にやってもらったりし、その際、感謝の気持ちを言葉に表すことを職員が心がけている。不穏になる方には、働きかけの方法を試行錯誤しながら取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族の意向を聞きながら、状態変化に合わせ、職員は出来ることから、始められるよう話し合いを持ち、作成見直しをしている。	モニタリングは半年に1回、見直しは1年としているが、利用者の身体状況や環境面に変化があれば担当者会議等を開催して意見を出し合い検討を重ね、現状に即した介護計画を作成し随時モニタリングをしている。今後、家族の事情が許せば、担当者会議に参加を促す工夫を提案したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった職員が記録に適宜記入し、一人一人の情報を、変化のあった時はすぐに見直し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族等の思いに柔軟に、また状況に応じて通院、送迎等対応している。必要な物なども家族ができないときは代行したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の福祉体験学習の訪問があったり近所のコンビニへ買い物に出かけたりしている。地域のボランティアからも余興や祭りの神輿などに来てもらい、楽しみや張り合いになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決まっている方には、事前にかけておいたり、都度聞いたりしながら、希望のところへ受診している。また、訪問診療の場合もある。	本人、家族の希望するかかりつけ医を基本としているが、家族が困難な時には職員が代行し、そうでない時は受診が必要になった経緯を医師に伝えるように文書にして家族に渡している。そのことによって家族の不安解消と安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さい気づきや心配なことは共有し、体調変化等あれば、訪問看護に報告し、指示が受けられる。協力医師へのスムーズなパイプ役となってもらっている。家族・本人・職員各々に安心が得られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連絡会議にも出席させてもらい、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて、本人、家族等からの意向確認を取り、またいつでも意向の変更についても思いや変化に対応できるように説明している。	10月に看取り支援を行っている。2ヶ月に渡ってのターミナルケアも日頃お世話になっている訪問看護に随時相談し、指示を受けると同時に協力医へとスムーズに連携ができた。こうした家族からの満足を得る看取りができたことで、職員の「やりがいと自信」に繋がっている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期で消防署の協力を得て訓練に参加し、体験・習得してもらえよう、出来るだけ全員参加としている。	急変時を想定して消防署を招いて年1回定例で訓練を行っている。それ以外にも事業所独自で研修を重ねることで、職員が利用者の急変時に対応できるように対策を講じている。事務所にはAEDの備え付けもあり、入り口には来訪者にも分かるように表示されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月1回の自主消防訓練の他、消防署の立会いのもとに、訓練を年1回実施している。	消防署立ち会いの下で年1回訓練を実施している。また事業所独自で自主消防訓練を2ヶ月1回実施しており、職員は火災時の対応についての理解を深めている。	火災対応についての訓練は実施しているが、その他の災害(水害・地震等)についての対策が具体化していない現状がある。万が一の備えとして、近隣との協力体制は欠かせない。今後は自治会長や近隣住民に呼びかけたり、運営推進会議メンバーにも避難訓練に参加してもらうなど、地域との協力の下、積極的に安全確保に努めることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切することと、馴れ合いとにならないように言葉かけにも注意したいと気にかけて対応している。	管理者、職員は細やかな観察力で日常的に注意を払っている。時として会話が不適切であったり、馴れ合いであったり、上目線であったりと気づいた時はお互いに注意し合える関係性と環境作りを管理者は目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の思いを押しつけるのではなく、その人のできる方法で飲み物やレクリエーションなど自己決定してもらっている。本人の希望や思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるが、柔軟に参加してもらっている。自分のペースで過ごせる人もあれば、そうでない人もいますので、様子を見ながら誘いかけや希望を聞いてみたりしてやりたいことに取り組めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や着がえなど、個別に合わせた支援や散髪時にも、希望を自分で伝えてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや皮むき、味付けや調理法を聞いたりしながら職員と一緒にできることをやってもらっている。片付けも自分なりのやり方があるようなので見守らせてもらっている。	献立表は季節や行事なども考慮して1ヶ月単位で作成している。年に1回は栄養士に食事のバランスを見てもらっているが、職員の「これでいいの？」の疑問点を払拭する意味で栄養士を招いての勉強会を実施する予定である。利用者は食事の準備から片づけまでを共に参加することで、喜び、やりがいを感じられるよう支援している。また、外食にも出かけることで気分転換も図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや量、その日の体調など情報共有して、次の食事につなげている。管理栄養士による研修も行っている。水分摂取には特に気をつけOSIを作り、不調時あるいは浴後などに飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	言葉かけや見守り、またはできない方への手伝いなど、把握し、支援している。習慣化されてない方への言葉かけや支援方法に苦労しているが、いろいろな方法で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツにならないように排泄のリズムをつかむよう情報を集めたりしてその人に合わせたパットの種類や誘導の仕方に配慮している。失敗してもさり気なく、済ませられるように対応している。	できるだけオムツにならないように個々の排泄リズムの把握に努め、リハビリパンツからパンツへ、オムツだった人がパット交換へと自立に向けた支援を行っている。夜間においては利用者の気持ちに配慮しながらトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るだけでなく、運動・果物・乳製品、水分補給など取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤も使用したり、季節毎の湯(しょうぶ湯・ゆず湯など)も楽しんでもらっている。本人の希望に沿って入浴方法や安心して入浴が出来るような対応をしている。	できるだけ利用者の要望に添えられるよう努めている。現在、毎日入りたいという希望者は居ないが週3回を基本として実施している。重度の利用者には避難用のネットを活用し、2人介助で安全・安心に入浴を実施することができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや習慣で好きなところで休息・午睡してもらっている。添い寝の必要の方もおり、安心できるような対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース内に服薬に関する(薬局からの)説明書をファイルし、職員が把握できるようにしている。服薬支援は、飲み込みまで確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手先の作業や、たたみ物など、その人の力が発揮されるような仕事をお願いしている。職員も参加し、会話したりしている。ねぎらいの言葉がけを忘れないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により毎日散歩等の支援をしたり、近所や時には、季節感が感じられるところなどにドライブに出かけたりしている。遠方の家族であるが、時々面会時には、自宅のあるところへ付き添って外出される方もある。	困難事例を抱える中で、日常的には言えないまでも散歩やドライブに出かけ、季節を感じて貰ったり気分転換を図っている。事業所の外にはベンチやテーブルなども設置され気軽に日向ぼっこするなど、外気に触れることのできる環境である。気軽に学童達が立ち寄ってくれることもある。また季節ごとに地域の祭りや催事に出かけることも利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布を持っており、買い物した時、支払いされる人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキ・贈り物が届き、礼状を書いたり、お礼の電話、時には声が聞きたくなったといわれる方に、家族や親せきとやりとりできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンに関しては好みがあるため、風の当たらない工夫をしたりしている。テレビの音量について共有のスペースでは難しい。壁面飾り等でも季節を感じてもらえるようにしている。カーテンでの光、温度、湿度には配慮し、こまめに調節したり気にかけている。	事業所全体が整理整頓され、明かりは自然の太陽光が十分取り込める環境となっている。また、ゆったりと寛げる共用スペースには、八海山の山並み、目前の農道を学童達が行き交う通学路となっており、自然のパノラマがすばらしい。「ここは気持ちがいい所」と利用者の発する言葉がピッタリの自然の光景は、壁面の飾り以上の心地よさを提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の思いを職員が汲み取れるよう配慮している。積極的にゴミ捨てをして下さる方がいていつも空のきれいなゴミ箱があります。一人で過ごせる場所に椅子を置いたり、ソファでくつろいで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分のお部屋という安心感や、お花好きの方には、庭で摘んだ草花や家族や親せきの方々の写真などが飾られ、自分好みにアレンジしたりできるようにしている。	馴染みの家具など自由に持ち込めることになっている。自分の部屋として安心して過ごせるよう配慮されている。事業所の廻りに季節を惜しむかのように咲いている花が、各部屋にもさり気なく飾られており快適な居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どうしたら分かるのか、一人一人の分かる力と、できる力を把握して、都度整えたり必要な物をそろえるようにしているが、混乱が生じた時には、丁寧に繰り返し説明したり、何が原因なのかを探り、相談し、手立てを考えるようにしている。		